



磐梯吾妻スカイライン（福島市）

高湯温泉から土湯峠に至る最高標高1,622mを走る山岳有料道路。

磐梯朝日国立公園、吾妻連峰を縦断する29kmの道のりは、「日本の道100選」にも選ばれている雄大で変化に富んだ自然の姿を堪能できる。作家井上靖氏が「吾妻八景」として選んだ景勝地が大きな見どころとなっている。「吾妻八景」の一つ「天狗の庭」は磐梯吾妻スカイラインで一番綺麗な紅葉スポットです。また、春先の雪の回廊も見事です。

株主の皆様へ

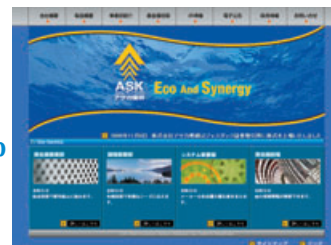
第43期決算報告書

平成21年10月1日から平成22年9月30日まで

個人投資家の皆様へ

詳しくはホームページを
ご覧下さい。

<http://www.asaka.co.jp>



株式会社アサカ理研

JASDAQ

証券コード：5724

■ トップインタビュー

Q1. 平成22年9月期の業績についてお聞かせください。

当連結会計年度のわが国経済は、新興国経済の成長などを背景に、輸出や生産に持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復に向かいました。しかしながら、欧州の信用不安による海外景気の下振れ懸念や、急激な円高の進展などから、先行きの不透明感は依然として強く、予断を許さない状況が継続しました。

当社グループの経営成績に大きく影響を及ぼす、電子部品・デバイス工業分野の生産においては、回復基調が続いており、業種によっては、景気後退による生産の急落前の水準にまで回復しております。また、主力製品である金をはじめとする貴金属の価格は、為替が円高で推移する中でも、比較的高い水準を維持しました。銅の価格は、急落前の水準には達しないものの、緩やかに回復してきております。

このような環境のもと、当社グループでは、年度目標である、生産効率の改善、新たな市場の開拓、新規事業の拡大、経営管理体制の強化に取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、11,778百万円（前連結会計年度比33.3%増）となりました。営業利益、経常利益、当期純利益はそれぞれ、415百万円（同200.9%増）、386百万円（同486.2%増）、181百万円（同169百万円増）と収益の回復を図ることができました。

Q2. 今後の見通しについてどのようなお考えでしょうか。

わが国経済は、政府による経済対策効果の一巡や、急激な円高の進行によって、景気回復の速度が鈍化すると見込まれています。電子部品・デバイス工業分野の生産においては、携帯情報端末や地デジ対応機器の普及などのプラス材料がある一方、政府の景気刺激策の終了による消費減退、円高の長期化による海外生産へのシフトなどの懸念材料もあります。また、欧州での信用不安や米国景気の下振れ懸念も根強く、先行きについては予断を許さない状況が続くと見込んでおります。

また、貴金属及び銅の価格については、比較的高い水準に回復して推移しておりますが、投機資金の流入による影響も指摘されているため、やや弱含みで推移する局面も考えられます。



代表取締役社長 山田 慶太

事業別の事業環境についてですが、貴金属事業では、主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野において、価格競争が激化しており、当社にも一層のコストダウンが求められる状況にあります。このことに対応し、顧客満足度向上のため、生産効率の改善に取り組むとともに、新たな市場を開拓すべく、海外も含めて積極的な営業活動を継続しています。環境事業においては、新たな事業基盤となるような製品や事業を構築すべく、積極的に新しい事業展開を行ってまいります。

今後も、株主の皆様をはじめとしたステークホルダーのご期待に沿えるよう、努力を続けてまいります。

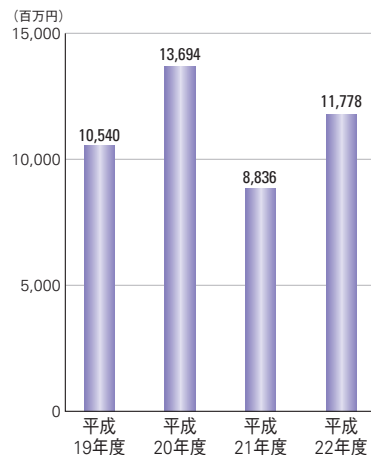
Q3. 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

世界経済の先行きを巡っては、不透明感が依然として強く、今後も予断を許さない状況が続くと見込んでおります。しかしながら、中長期的には、環境保全意識の高まりや希少資源の重要性の高まりなど、資源のリサイクルに対する経済的、社会的重要性はますます増していくものと捉えており、当社グループの担うべき役割もますます重要なものになっていくと考えております。

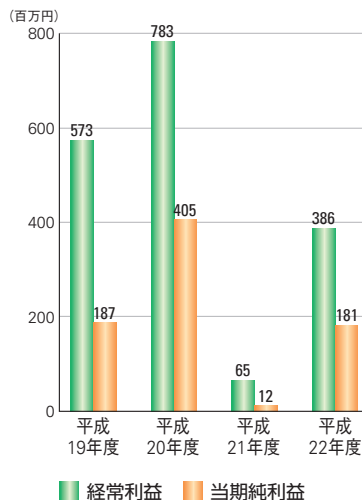
厳しい環境の中ではありますが、従業員一丸となって、企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

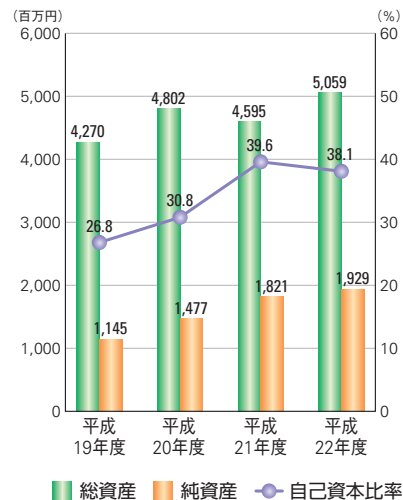
売上高



経常利益、当期純利益



総資産、純資産、自己資本比率





当連結会計年度の概況

■貴金属事業

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野においては、景気後退の影響で生産数量が一時大きく落ち込みましたが、在庫調整が一巡し、輸出が持ち直してきていることなどから、生産数量は、回復基調で推移しました。また、主力製品である金の価格は、ドルベースでは史上最高値圏に達しており、為替が円高で推移する中でも、比較的高い水準を維持しました。

この結果、貴金属事業全体としては、電子部品・デバイス工業分野のお客様からの集荷量が増加するとともに、主力製品の販売価格がいずれも前連結会計年度を上回ったことから、売上高は、10,577百万円（前連結会計年度比35.7%増）となりました。営業利益は、人件費及び労務費が増加したものの、売上高の増加や、コスト削減の効果等により、668百万円（同25.5%増）となりました。

■環境事業

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界においては、生産数量が、ピーク時に比べると依然低い水準であるものの、前連結会計年度と比較すると若干の回復を示しております。銅市況に連動する銅ペレットの販売価格についても、急落前の水準には達しないものの、緩やかな回復を示しました。なお、クロムエッチング液再生事業については、市場の縮小が続いており、将来的な拡大も見通せないことから、当連結会計年度において事業を終了することいたしました。

この結果、環境事業全体としては、クロムエッチング液再生事業の終了による売上高の減少があったものの、塩化第二鉄液、銅ペレット等の主力製品の販売数量が増加するとともに、銅ペレットの販売価格が前連結会計年度を上回ったことから、売上高は、1,123百万円（前連結会計年度比19.1%増）となりました。営業利益は、人件費及び労務費が増加したものの、売上高の増加等により、248百万円（同105.5%増）となりました。

■その他の事業

システム受託開発事業においては、景気後退の影響を受け、システム開発予算の凍結や延期を行うお客様もあり、依然厳しい事業環境が続いております。また、運輸事業においては、前連結会計年度と比較すると事業環境は徐々に改善しつつあるものの、本格的な回復には至っておりません。この結果、その他の事業全体としての売上高は、252百万円（前連結会計年度比5.0%減）となりました。営業利益は、コスト削減の効果等によって、5百万円（前連結会計年度は33百万円の営業損失）となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成22年9月30日)	前期 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産	3,049	2,575
固定資産	2,009	2,020
有形固定資産	1,807	1,801
無形固定資産	29	35
投資その他の資産	171	183
資産合計	5,059	4,595
負債の部		
流動負債	2,332	1,706
固定負債	797	1,067
負債合計	3,130	2,774
純資産の部		
株主資本	1,893	1,788
資本金	504	504
資本剰余金	339	339
利益剰余金	1,095	944
自己株式	△46	－
評価・換算差額等	35	33
純資産合計	1,929	1,821
負債純資産合計	5,059	4,595

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成21年10月1日～ 平成22年9月30日)	前期 (平成20年10月1日～ 平成21年9月30日)
売上高	11,778	8,836
売上原価	10,184	7,611
売上総利益	1,594	1,224
販売費及び一般管理費	1,178	1,086
営業利益	415	138
営業外収益	28	19
営業外費用	57	91
経常利益	386	65
特別利益	1	24
特別損失	46	47
税金等調整前当期純利益	341	43
法人税、住民税及び事業税	204	3
法人税等調整額	△45	27
当期純利益	181	12

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

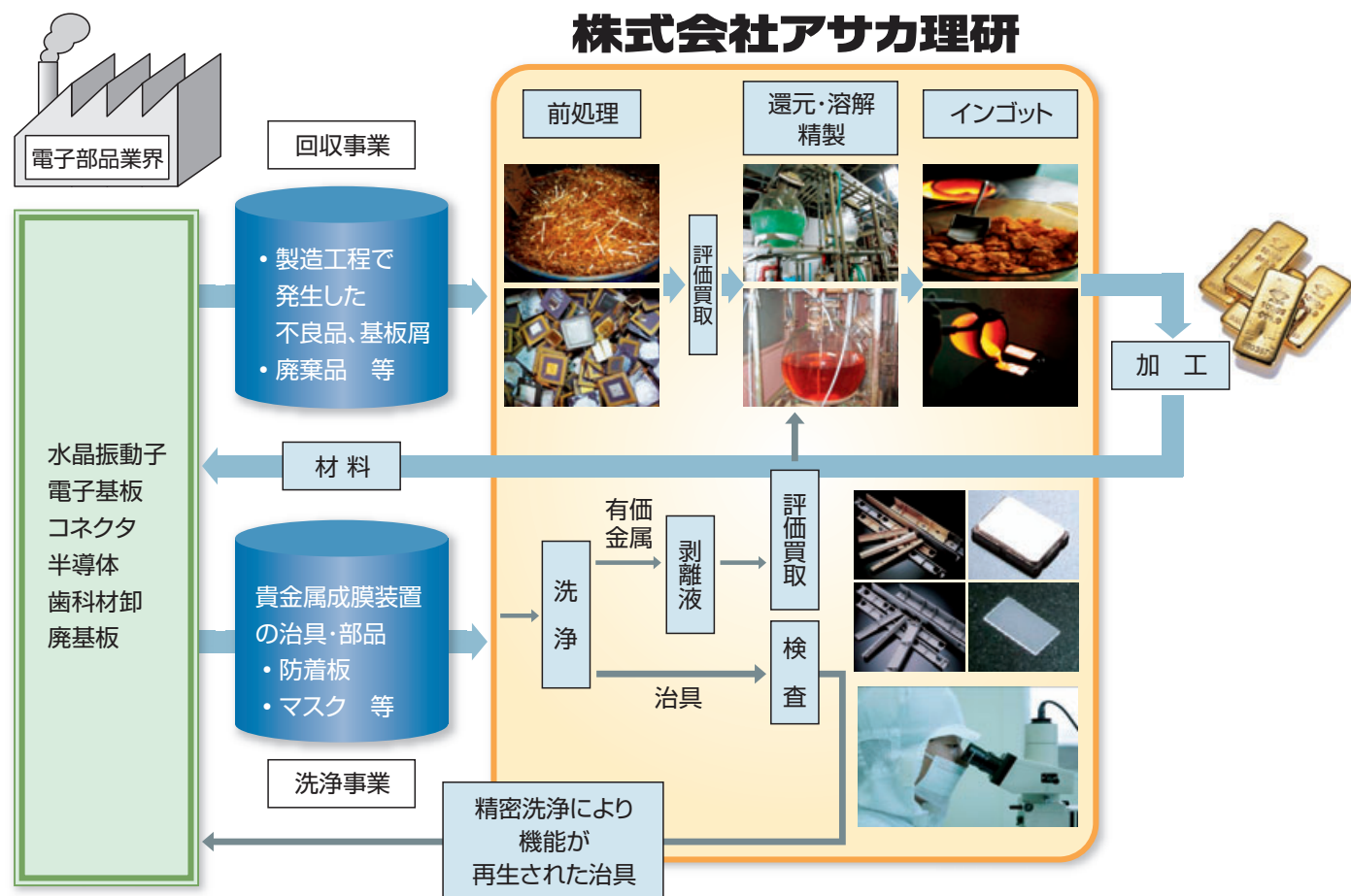
	当期 (平成21年10月1日～ 平成22年9月30日)	前期 (平成20年10月1日～ 平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	713	△206
投資活動によるキャッシュ・フロー	△166	△441
財務活動によるキャッシュ・フロー	△302	270
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	244	△376
現金及び現金同等物の期首残高	570	947
現金及び現金同等物の期末残高	814	570

■ リサイクルのしくみ（貴金属事業編）

製造工程から発生する不良品等に確かな価値を見出し、そこからの回収技術の開発に力を注ぐ中で昭和46年に事業化を開始させたのが貴金属事業です。

当事業では、主に電子部品メーカーをはじめとした有価金属を含有する材料を扱う業者より集荷した不良品・基板屑・廃棄品等いわゆる都市鉱山から、金・銀・白金等の貴金属を独自の技術により分離・回収しています。平成7年には、精密洗浄による治具再生及び有価金属回収を目的とする洗浄事業にも展開しており、今や弊社の柱となる事業へと成長を遂げました。

希少資源の重要性や環境保全に対する意識が高まりを見せる中、貴金属事業の果たす役割はこれまで以上に重要なものとなっていくことでしょう。



■会社概要

商 号	株式会社アサカ理研
本 社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセ口47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
事業内容	
①貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精錬処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
②環境事業	塩化第二鉄廃液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、クロムエッチング液の再生・販売、水処理事業、光触媒事業
③その他の事業	自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬
資本金	504,295,600円

■役 員

代表取締役社長	山田 慶太
取締役	吉田 隆之
取締役兼執行役員	志村 高史
取締役兼執行役員	佐久間幸雄
取締役兼執行役員	鈴木 忍
取締役	桜井 正孝
取締役	熊谷 巧
取締役	三崎 秀央
常勤監査役	大谷 勝男
監査役	遠藤 政勝
監査役	森 勝房

(注) 監査役大谷勝男氏及び遠藤政勝氏の両名は、社外監査役であります。

■株式の状況

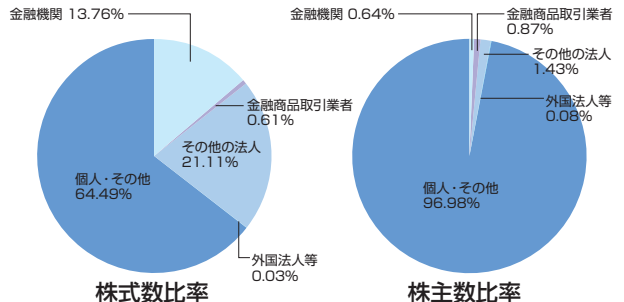
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式数84,500株を含む)
株主数	1,260名

■大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
山田 慶太	716	28.81
有限会社モラル・コーポレーション	341	13.71
野村ホールディングス株式会社	100	4.02
株式会社常陽銀行	90	3.62
株式会社東邦銀行	81	3.26
山田 盛久	72	2.93
日本生命保険相互会社	72	2.91
東京中小企業投資育成株式会社	50	2.01
第一生命保険株式会社	50	2.01
アント・ブリッジ2号投資事業有限責任組合 無限責任組合員 アント・キャピタル・パートナーズ	48	1.93

(注) 当社は自己株式(84,500株)を保有しておりますが、議決権がないため上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■所有者別分布状況



上記比率は、当社保有の自己株式(84,500株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
期末配当金受領株主確定日	9月30日
中間配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-49-7009（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所・ジャスダック市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

1. ご注意

- (1) 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意下さい。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

あぶくま洞は、およそ8,000万年という歳月をかけて創られた大自然の造形美。



全長約600mの洞内は、天井から大きく下がる鍾乳石や床下からタケノコのように堆積してできる石筍（せきじゅん）など千変万化の神秘の世界が続いています。したたり落ちる地下水が自らの溶食作用によって創りあげる様々な造形美にはそれぞれに名前が付けられ、訪れる人を魅了します。三層に分かれる洞内で最大のホール「滝根御殿」では、クリスタルカーテンやボックスワーク、シールド、洞穴サンゴなど、ここでしか見ることのできない貴重な鍾乳石を間近に鑑賞することができます。また、竜宮殿や月の世界、樹氷、クリスマスツリー、石化の樹林など、見る人を感動させてやまない大自然の神秘が続いています。

福島の旅が丸わかり!!

福島の旅

で検索 <http://www.tif.ne.jp>

滝根町観光協会

福島県田村市滝根町神俣字関場118 TEL：0247-78-1204

<http://abukumado.jp/index.html>

うつくしま観光プロモーション推進機構（財団法人福島県観光物産交流協会 内）

福島市三河南町1番20号コラッセふくしま7階 TEL：024-525-4024